

平成 23 年度第 6 回 IODP 部会執行部会

日時:2011 年 11 月 24 日(木)15:00~17:00

場所:JAMSTEC 東京事務所 大会議室

出席者:

執行部:川幡穂高(部会長・東京大学大気海洋研究所)、西 弘嗣(部会長補佐・東北大学)、
井上麻夕里(東京大学大気海洋研究所)、木村純一(海洋研究開発機構)、鈴木庸平(東京大学)、
中西正男(千葉大学)、中村恭之(海洋研究開発機構)、道林克禎(静岡大学)、
村山雅史(高知大学海洋コア総合研究センター)、森田澄人(産業技術総合研究所)

オブザーバー:

CDEX:江口暢久、東 垣

IODP-MI:川村善久

事務局:菊田宏之 藤森英俊、梅津慶太(CDEX)

欠席者:小林励司(鹿児島大学)、辻 健(京都大学)、七山 太(産業技術総合研究所)、
横山祐典(東京大学大気海洋研究所)

議事次第(案)【担当(敬称略)】

1. Post-2013 のフレームワーク再検討に関する現状【MEXT】資料 1、2
2. 掘削航海関連報告【事務局】.....資料 3、4
 - ・乗船者応募状況(Exps. 337, 338, 343, 344, 345)
 - ・乗船者決定状況(Exps. 341, 342)
3. CDEX 報告【CDEX】
4. J-DESC 活動【事務局】
 - ・8 月に凍結した活動について(IODP プロポーザル発掘、成果公表助成など)【川幡】
 - ・ニューズレター vol. 5 発行について【事務局】
 - ・臨時総会(開催時期、会費など)【川幡】資料 5、6、7
 - ・Hans Christian Larsen Farewell Symposium & Party【川幡】資料 8
5. その他
 - ・SW Pacific IODP Workshop【川幡】資料 9
 - ・モホール計画 HP 立ち上げについて【道林】

配布資料

- 資料1 IWG+共同議長からの Post-2013 のフレームワークに関するメッセージ
- 資料2 フレームワーク再考に対する J-DESC としての対応
- 資料3 IODP 掘削航海スケジュールマップ
- 資料4 乗船者・招聘者一覧(Exps. 341, 342)
- 資料5 J-DESC 規約
- 資料6 J-DESC 予算履歴
- 資料7 平成 23 年度予算積み上げ表
- 資料8 Hans Christian Larsen Farewell Symposium & Party 概要(案)
- 資料9 SW Pacific IODP Workshop Proposal (Draft) by ANZIC

参考資料 PEP 事前打ち合わせ(11/15)議事まとめ

合意事項

実行項目 (111124-01): Exp. 343, 344 等の乗船者リクルートは、地震発生帯掘削コミュニティにアレンジをお願いしているため、木村委員から状況を確認する。

実行項目 (111124-02): 現在の乗船者応募状況について、事務局からより詳しい情報(表形式)を執行部に送る。

合意項目 (111124-03): 成果公表助成を再開する。AGU で会った人に宣伝するため、12/20 を申請期限とする。また、IODP プロポーザルの発掘についても活動を開始する。

合意項目 (111124-04): 今年度のニュースレターの発行の準備に取り掛かる。詳しいコンテンツ等はメールにて調整する。

合意項目 (111124-05): Hans Christian Larsen のシンポジウムと日程を合わせて臨時総会を開催する。1/25 (水) のタイムスケジュールは、改めて川幡部会長が整理して連絡する。

合意項目 (111124-06): シンポジウムの会場費を J-DESC IODP 部会経費から支出する。

合意項目 (111124-07): J-DESC として、SW Pacific IODP Workshop への日本から参加する研究者の旅費を (IODP-MI から手当てされない場合) 支援する形で、資金的な援助を行う。

合意項目 (111124-08): J-DESC のウェブページからモホール計画をはじめ、KANAME など、各プロジェクトに対してリンクを張る。

議事録(案)

1. Post-2013 のフレームワーク再検討に関する現状【MEXT】.....資料 1、2

川幡部会長より説明がなされた。

- 11 月 22 日に IODP-MI の BoG メンバーが集まって丸一日の会議が行われた。
- J-DESC からは出席は誰もしていないが、資料を提出した(資料 2)。おおよその内容は以下の通り。
- 現在、日米欧で検討されている以下のようなフレームワークについておおよそ合意する。
 - Post-2013 について、プロポーザルの提出権、試料・データへのアクセス、乗船権については現在とほぼ同レベル。
 - Central Management Office を廃止し、Support Office を設置。
 - SAS は PEP とサービスパネル (SCP, EPSP, STP) は継続する。SIPCom は廃止。等々。
- PEP Chair への J-DESC からの立候補については、今後、適任者の推薦を検討する。
- 日本の枠を韓国など、日本と友好な国とコントラクトを結んだ上で提供することを文科省と議論していきたい。
- 「ちきゅう」の運航がライザーにこだわらない方針となると聞いており、古環境のコミュニティにとって魅力的になることを願う。
- これまでの乗船研究の成果については、「ちきゅう」での成果が徐々に論文化されてきている。しかし、固体地球分野ではより一層の努力が必要と考えている。
- コアスクールについては韓国や台湾などの研究者を積極的に受け入れる方向で調整を始めている。ただし、高知大学はもとより、マリン・ワークからも協力してもらう必要がある。

モホールについて

- 1 日およそ 1 億円の計算で、現在の技術では 500 日かかるため、トータルで 500 億円かかる。
- IODP-MI は (特にドリルビットの) 技術開発で掘削日数を減らすことで、250~300 億円程度にできないかと考えている。
- 足りないお金をどのように確保するかについての戦略を検討する必要がある。

コアスクールの国際化について

- 「ちきゅう」が動いている期間、マリン・ワークからサポートを受けることは難しい。
- コアセンターにいる人材からの協力は、JAMSTEC とマリン・ワークの契約書にその旨が読める記述がなければならぬ。

2. 掘削航海関連報告【事務局】.....資料 3、4

乗船者応募状況 (Exps. 337, 338, 343, 344, 345)

- Exp. 343 (募集 〆 切 12/1)
 - 4 名応募。

- IO (CDEX) へのリスト提出期限:12/15。
- Exp. 344 (募集〆切 12/15)
 - 0名応募。
 - IO (USIO) へのリスト提出期限:2/15
 - Co-chief の1名は坂口有人氏。乗船枠は7。
- Exp. 345 (募集〆切 12/15)
 - 2名応募。
 - IO (USIO) へのリスト提出期限:3/1
 - 木村委員から複数の研究室に声をかけており、ある程度人数はそろそろ見込み。
- Exp. 337 追加 (募集〆切 12/20)
 - 1名応募。
 - IO (CDEX) へのリスト提出期限:1月中旬。
 - 本募集は特定の分野のみで行っている。
- Exp. 338 (募集〆切 1/6)
 - 0名応募。
 - IO (CDEX) へのリスト提出期限:1月中旬。
 - 延期される前の募集では8名の応募があったが、現時点で誰からも連絡はない。

実行項目 (111124-01): Exp. 343、344 等の乗船者リクルートは、地震発生帯掘削コミュニティーにアレンジをお願いしているため、木村委員から状況を確認する。

実行項目 (111124-02): 現在の乗船者応募状況について、事務局からより詳しい情報 (表形式) を執行部に送る。

- 乗船者決定状況 (Exps. 341, 342)
 - Exp. 341 (航海時期:2013/5/27~7/27)
 - 乗船枠8に8名の応募があり、全員 Invite され、いずれも Accept 済み。
 - 学生が多いため、サポートが必要。
 - Exp. 342 (航海時期:2012/6/18~8/17)
 - 乗船枠8に9名の応募があり、6名に Invitation が送られ、4名が Accept 済み。Invite されていないのは学生のみ。
 - USIO から、Co-chief が経験のある Sedimentologist を再募集してくれないかとの連絡があったが、J-DESC としては、すでに送ったリストから選んでほしい旨連絡済み。
 - 学生は Sedimentologist として乗船が決まった場合、乗船前にコアスクールに行ってもらうなど、J-DESC として十分なサポートをするべきである。

3. CDEX 報告【CDEX】

江口氏より報告がなされた。

- 12月終わりには終了し、1月には帰国。
- 2月~3月に JOGMEC 航海の予定。
- 4/1~5/21 の日程で Exp. 343 終了後ドックでスラスター取り付けを行う。
- その後 Exp. 337 (下北)、338 (南海ライザー) と続く。
- Exp. 338 は 2013 年 1 月 31 日まで。

4. J-DESC 活動【事務局】

• 8月に凍結した活動について (IODP プロポーザル発掘、成果公表助成など) 【川幡】川幡部会長より、標記の件について説明がなされた。

合意項目 (111124-03): 成果公表助成を再開する。AGU で会った人に宣伝するため、12/20 を申請期限とする。また、IODP プロポーザルの発掘についても活動を開始する。

・ニューズレターvol. 5 発行について【事務局】

- ・ ちきゅう航海の成果を分かりやすい記事で紹介するのは良いのではないかと？
- ・ コアスクールを受けて IODP の航海に乗船した人の体験談などあれば、読む人が参考になる。

合意項目 (111124-04): 今年度のニューズレターの発行の準備に取り掛かる。詳しいコンテンツ等はメールにて調整する。

- ・臨時総会 (開催時期、会費など)【川幡】.....資料 5、6、7
- ・ 総会だけでなく、シンポジウムを併催してはどうか。臨時総会 1 時間程度、シンポジウム 2 時間程度。
- ・ シンポジウムの内容は「ちきゅう」の将来のプロジェクトのアイデア (6~7 つくらい)を話してもらう。

合意項目 (111124-05): Hans Christian Larsen のシンポジウムと日程を合わせて臨時総会を開催する。1/25 (水)のタイムスケジュールは、改めて川幡部会長が整理して連絡する。

- ・Hans Christian Larsen Farewell Symposium & Party【川幡】.....資料 8

川幡部会長より資料 8 に基づき説明がなされた。

- ・ 来年 1 月に IODP-MI を退職する Hans Christian Larsen 氏の Farewell Symposium が倉本氏の発案により計画されている。

合意項目 (111124-06): シンポジウムの会場費を J-DESC IODP 部会経費から支出する。

5. その他

- ・SW Pacific IODP Workshop【川幡】.....資料 9

川幡部会長より資料 9 に基づき説明がなされた。

- ・ ANZIC の Neville Exon より、SW Pacific の IODP WS (IODP-MI に WS Proposal として提出) について案内があり、5 名の共同コンビーナーの一人を J-DESC から推薦するよう要請があった。
- ・ この要請に対し 1 名を推薦した。
- ・ また、J-DESC からも資金的な援助が可能かどうかの問い合わせも来ている。

合意項目 (111124-07): J-DESC として、SW Pacific IODP Workshop への日本から参加する研究者の旅費を (IODP-MI から手当てされない場合) 支援する形で、資金的な援助を行う。

- ・モホール計画 HP 立ち上げについて【道林】

道林委員より説明がなされた。

- ・ 国内のモホールコミュニティで集会を実施し、組織的に対応する体制を整えた。
- ・ モホール計画の情報発信のための HP を作っており、J-DESC のサーバーに置いか、ウェブリンクを張ってほしい。
- ・ J-DESC のウェブページ上にコンテンツを置くと、J-DESC が特定のプロポーザルに肩入れしていると思われるかもしれない。

合意項目 (111124-08): J-DESC のウェブページからモホール計画をはじめ、KANAME など、各プロジェクトに対してリンクを張る。

・その他

- ・ 来年度予算の検討を次回執行部会にて行う。

・次回会議開催予定

12/20 (火) 15:00~18:00 に JAMSTEC 東京事務所 大会議室にて開催。

次々回は 1/25 (水) の総会前に IODP-MI 会議室にて開催予定 (各自昼食を持参のこと)。